

美術家 / Okabe Masao

華道家 / Katagiri Atsunobu

岡部昌生 × 片桐功敦



アートで伝える考える 福島は今、未来 in ASHIKAGA

会期 / 2016年9月6日(火) ⇒ 9月14日(水)

観覧時間 / 10:00~17:00

会場 / 足利商工会議所友愛会館1階 ギャラリーカッサ・市民ギャラリー
(栃木県足利市通3丁目2757)

主催: はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会
協力: 足利商工会議所・足利市立美術館

写真上 岡部昌生 / 津波により土間に刻まれている擦過痕 (南相馬市小高区井田川北新田 2014.5.22)

写真下 片桐功敦 / 津波がきた浜辺 (南相馬市 2014.7.30)

観覧料 無料

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトとは…福島県立博物館が福島県内の大学、文化施設、NPO等との連携により2012年から実施しているアートプロジェクト。はま(福島県の太平洋側)、なか(東北新幹線、東北自動車道が貫く福島県の中央部)、あいづ(新潟県に隣接する福島県の山間部)で展開する活動を通して、福島県文化・歴史・自然の豊かさを再発見すること、福島が抱える課題を共有し共に考える場を生み出すことを目的としています。2016年度は、11のプロジェクトを実施。詳しくはこちら → hamanakaizu.jp



はま・なか・あいづ
文化連携プロジェクト

アートで伝える考える 福島は今、未来 in ASHIKAGA

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から5年を迎え、その記憶も薄れつつあります。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人が共有し続けなければなりません。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から2011年以降福島が抱えている課題に向き合ってきました。

本展で成果をご覧いただくのは、いくつか実施しているプロジェクトのうち「岡部昌生フロタージュプロジェクト」「福島写真美術館プロジェクト—南相馬環境記録プロジェクト」。

フロタージュ(擦り出し)の技法で都市、地域、近代の記憶の記録に取り組むアーティスト岡部昌生氏、花道みささぎ流家元として花を活ける行為のアニミズム的根源に触れる多彩な活動を展開している片桐功敦氏の作品を展示します。

岡部昌生氏は東日本大震災の翌年2012年から津波被害と東京電力福島第一原子力発電所事故の大きな被害を受けた南相馬市からプロジェクトを展開、その後プロジェクトは飯館村・大熊町など原発事故の被害を強く受けた地域に広がっています。

片桐功敦氏は2013・2014年度に本プロジェクトに参加。南相馬市に長期滞在を行い津波被災地で亡くなった命へ捧げる花を写真に記録しました。

福島県でもっとも大きな犠牲を強いられた地域の一つ南相馬市での2人のアーティストの活動から生まれた作品を通して、風化が進む東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の記憶を今一度共有したいと思います。

Okabe Masao 岡部昌生



仲板耕地整理の碑
(南相馬市鹿島区南柚木宮前 2015.2)



海岸より550m地点に漂着したテトラポットに無数のフジツボの死骸が付着する (南相馬市 2013.7.13)

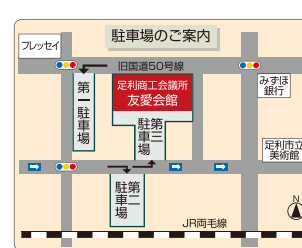


写真左
漂着したテトラポットに付着したフジツボの死骸
(南相馬市小高区井田川2013.7)

写真右
津波により土間に刻まれている擦過痕
(南相馬市小高区井田川北新田2014.5.22)

岡部昌生 / Okabe Masao
美術家。都市に内在する不可視の記憶や歴史の痕跡を写し取るため、1977年よりフロタージュ(擦り出し)という手法を用いて表現を始める。継続的に広島や福島といった都市に関わり続けている。

■会場までのご案内



Katagiri Atsunobu 片桐功敦



Sacrifice 花:ひまわり 採取地:南相馬市鹿島区南柚木
器:縄文土器(深鉢) 南相馬市小高区浦尻貝塚出土



Sacrifice 花:栗 器:縄文時代の住居跡内の炉
南相馬市原町区東町遺跡



写真左
Sacrifice 花:椿、他
撮影地:浪江町請戸

写真右
Sacrifice 花:泰山木
撮影地:浪江町請戸

片桐功敦 / Katagiri Atsunobu
華道家。1997年、大阪府堺市のいけばな流派、花道みささぎ流家元を襲名。その作品群はいけばなが源流として持つ「アニミズム」的な側面を掘り下げ、花を通してひとときの空間を生み出している。

■会場のお問合せ

足利商工会議所
〒326-8502 栃木県足利市通3丁目2757 TEL:0284-21-1354
*受付時間 9:00~18:00

■お問合せ

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会事務局
〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 (福島県立博物館内)
TEL:0242-28-6000 (福島県立博物館代表)
FAX:0242-28-5986 (福島県立博物館内) *毎週月曜日、祝日の翌日は休業

■トークイベント

足尾の記憶・福島の未来

日時:9月10日(土)14:00~16:00

会場:足利商工会議所友愛会館4階 会員サロン

講師:川島健二氏(民俗学研究者・群馬県邑楽町文化財保護調査委員)

皆川俊平氏(WATARASE Art Project代表)

篠原誠司氏(足利市立美術館学芸員)

参加費:無料 / 申し込み:不要

川島健二氏 / 民俗学研究者。群馬県邑楽町文化財保護調査委員。柳田国男研究をベースに地名、アイヌ・沖縄文化、群馬東部地域の民俗研究を行うかたわら文学・美術に幅広く関心を持つ。著書に『柳田国男を読む』(共著・1995年)、『沖繩を読む』(状況出版・1999年)他。

皆川俊平氏 / WATARASE Art Project代表。2008年よりWATARASE Art Projectに参加、2010年より代表を勤め、日光市・足尾町を拠点にアーティスト主導の滞在型アートプロジェクトを展開している。

篠原誠司氏 / 足利市立美術館学芸員。1992年から2005年まで東京・神宮前でGallery ART SPACE主宰。2009年より現職。実験的な企画展を展開するかたわら、写真家としても活動している。

■ギャラリートーク

日時:9月11日(日)11:00~12:00

会場:足利商工会議所友愛会館1階

ギャラリーカッサ・市民ギャラリー

講師:小林めぐみ(福島県立博物館学芸員)

参加費:無料 / 申し込み:不要